



# 相ノ木っ子だより



令和3年度  
1月号  
上市町立  
相ノ木小学校

## 心も目も耳もしっかりと開いて



「心も目も耳もしっかりと開き、素直な心でいろんなことを吸収していきましょう」

始業式、わたしは子供たちにそう話しました。『自分にこだわる』にこだわり、自分らしさの確立を目指してきた今年度。新型コロナウイルスの感染状況によって内容や方法に不安定要素を抱えている学校教育ではありますが、相ノ木っ子一人一人の学びに向かう力は着実に育ってきています。自分のよさや得意なことを伸ばしながら、自分らしい学習の仕方を考え、意欲的に取り組んでいます。そういった自分の学びのスタイルを定着させつつある子供たちですが、今後は苦手とすることにも食欲にチャレンジし、不得意な分野でも我慢と努力を重ねられるようになり、少々好きになるぐらいになってほしいと思います。子供たちは、まだまだ苦手なことからは逃げ出してしまいがちで、辛抱を続けていくことがなかなかできません。まあ人間誰しもそういったことから逃れたいものですし、嫌いなことを好きになることはとても難しいことではあります。でも今の相ノ木っ子たちなら、そういった面を改善し、幅広く吸収しながら成長していけるのではないかと期待しています。

以前「素直な心の初段になる」についてお話ししましたが、やはり子供たちには、何でも受け入れる素直さをもっともっと身に付け、少々耳の痛いことも聞き入れようとする広い度量をもってほしいです。当然苦手なことに対しては最初から意欲は出ませんし、集中力や持続力が続くはずもありません。でも、周りからのアドバイスを大事にし、自分に生かそうとする気持ちをもつことによって、我慢し、努力していけるようになります。だからこそ子供たちには、心も目も耳もしっかりと開き、素直に相手と向き合ってもらいたいのです。ただ相手と接する子供たちの様子を見ていて、気になるのは使っている言葉です。敬語や丁寧語といったことはさておき、発している言葉、飛び交っている言葉自体に何かひっかかるものがあります。自分の尊厳を損なう言葉、人を傷つける言葉があまりにも平気に使われている感じがします。まだまだ子供だから仕方ないのかもしれませんが、やはり子供のうちから言葉の重みというものを感じ取らせる必要があるのではないのでしょうか。

言葉そのものはもちろん、口調、表情等言葉に関わる全てを通して人は思いを表現しています。言葉として発することや受け止めることは人理解であり、だからこそ言葉は人にとってたいへん大切なものなのです。でも、あまりそういった意識をもたない現代人が多くなってきたような気がします。言葉を軽んじるとでも言ったらよいのでしょうか、何気ない一言で相手を傷つけてしまいがちで、もっと思いやりあふれる言葉が必要だと思います。「そこに愛はあるんか？」よくテレビで流れているCMのフレーズなのですが、子供たちに問いたいものです。相手の言葉を受け入れる時、そこに自分を大切にしようとする愛はあるのか？自分が言葉を発する時、そこに相手を尊敬する愛があるのか？愛があふれるくらいに言葉を大事にするならば、きっと言葉を発する心、言葉を受け止める心も自然と素直なものになると思います。だからこそ、全身全霊で言葉と関わり、自分のよさにもよくないところにも向き合い、新たな成長をしていくべきなのです。

マザー・テレサは、次の言葉を残しています。

- 思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。
- 言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。
- 行動に気をつけなさい。それはいつか習慣になるから。
- 習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。
- 性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。

「思いに気をつけて言葉を使う」将来の自分にとって大事なことなのですね。ぜひ、相ノ木っ子のみんなには言葉に愛を込め、素直さを磨き、新たな自分を開拓して行ってほしいものです。



# 名は体を。字は何を？



シーンと張りつめた空気が流れる教室。一字一字心を込めて書いている子供たちの姿がありました。新学期の始まりに、1・2年生は硬筆で、3～6年生は毛筆で新年早々恒例の校内書初大会に取り組みました。手本を見ながら、それに近づく字を書こうと、真剣に向き合う子供たちです。クレパスや筆をていねいかつ力強く運ぶのですが、なかなかお手本通りにはいきません。満足気の子もいれば、首をかしげて納得いかない表情の子もいます。いやはや書写とは、なかなか難しいものです。それでも、一人一人が真剣に、ていねいに字を書くことこそ書初大会の意義であり、これまでの練習も含めて集中力や根気強さを高める大会のよさでもあります。

わたしは、小さな頃から落ち着きがない質で、字をていねいに書こうとしない子供でした。「書けばいいんだろう」「自分が読めればいい」と、ノート等に書きなぐるのが常でした。まあ人から褒められることのない字でしたし、わたしが教員になったことを聞いた小・中学校の同級生が、「あんな汚い字書いって、よう先生なれたの」と驚いたぐらいですから。そういった習慣は大人になってもなかなか抜けず、ワープロの有り難味を感じていました。それでも、職業による習慣付けや意識改革とはすごいもので、書写の指導や賞状の筆書き等に勤しむうちに、人様に見られても少しは恥ずかしくない字になってきたようです。

筆記具の持ち方や書く姿勢、書くスピード等人それぞれに癖があり、書く字には同じものはありません。同じ手本を見ながら書く書初大会ですら、子供たちそれぞれが書き上げた作品には個性があります。「名は体を表す」とよく言いますが、付けられた名前がものの実体そのものを表すのならば、わたしたちが書く字は何を表しているのだろうか、子供たちの書初大会の様子や作品を見てふと思ってしまいました。

芸術家として様々な顔をもつ北大路魯山人は次のように言っています。

書でも絵でも陶器でも料理でも、  
結局そこに出現するものは、作者の姿であり、  
善かれ悪しかれ、自分というものが出てくるのであります。



やはり字は書く人の姿そのもの、言い換えればその人のこれまでの歩みや生き様を表すものなのでしょう。そう考えると、子供たちには一字一字に自分の姿が表れているということを常に意識してほしいですし、堂々と自分の字を書き表せるようになってもらいたいと思います。

また、魯山人はこうも言っています。

うまい字はたくさんあるが、  
よい字というものは少ない。

整った字、美しい字を書けることは素敵なことですし、そういう字を目指す心構えは必要なことでしょう。ですが、字にその人のよさが表れるような人生経験を積み重ねていくことはもっと大切です。相ノ木っ子のみんなには、よい字が書けることを目指して行ってほしいものです。

## 行事予定（1月中旬～2月中旬）

1月12日（水）	身体・視力検査（1・2年）	2月 3日（木）	中学校体験入学（6年）
13日（木）	身体・視力検査（3・4年）	4日（金）	学習参観 学級懇談会
14日（金）	身体・視力検査（5・6年）	11日（金）	建国記念の日
	英語教室（1・2年）		
17日（月）	なわとび検定週間（～1/21）		
18日（火）	英語教室（1・2年）		
26日（水）	スキー教室（3～6年）		

